

## 編集後記

かされることでしょう。

◇白倉論文は、甲府を生活の舞台とした芥川賞作家小尾十三にスポットをあてたもの

です。「登攀」「雑巾先生」などの小説に

ついて、作品の生まれた背景や題材の採り方を詳細に記述し、愛の精神を基調とする

小尾文学の神髄に迫っています。

◇続く塙野論文も文学に関するものです。

これは、昭和一七年より開始された「中部

文学」の刊行などに、甲府を活動拠点とす

る小規模な地方文壇の形成と展開をみたも

ので、地方文壇成立の要件を探りつつ、地

方文学の存在意識を問い合わせた意欲作です。

◇秋原委員・平野修氏による「湯村山城跡

発掘調査報告」は、昭和六三年に考古・古

代・中世部会が実施した湯村山城の調査報

告です。既に調査の概要是、「原始・古代・

中世史料編」や「同通史編」に発表されて

いますが、今回が正式報告となります。遺

構・遺物の実測図が多く作成されています

ので、今後、城郭研究の貴重な資料となる

ことでしょう。

◇畠大介氏の論文は、立地形に左右され易

い山城の縄張りについて、尾根上に占地す

る城郭だけを抽出して検討することにより、

築城手法の系統的把握を試みています。城

郭研究に新たな視点を投じていて、重要な

です。

◇「廿人町の歴史」は、小沢秀之委員より

数年前にいただいた原稿を収録させていた

だきました。つぶさな現地踏査とヒヤリン

グ調査をベースに、廿人町のうつり変わり

と、この町に生まれ育った初代駒込正松浦

讓、また同町の守護神「稻荷社」などにつ

いて記述しております。

◇柴辻委員の報文は、本草学者波江虹(たかひら)伯の著わした文化年間の紀行文「官遊紀

勝」の紹介です。同書は本県では全くしら

れていた史料ですが、甲府に関わる記述内容とリアルな挿絵にみるべきものが

あります。挿絵の一部は「近世通史編」の

口絵でも紹介する予定ですので、ご期待く

ださい。

◇「市史の広場」には、前編さん委員の鷹

野水道事業管理者、古屋調査協力員、事務

局山田武雄の各氏から、本市上水道・片歌・

石造物調査に関する小論をお寄せいただき

ました。

◇本号は、「現代史料編II」「甲府の石造

物」「市史編さんだより第16号」と編集日

程が重なりましたが、どうやら予定した日程でお届けすることができます。また、初めて任された「編集後記」もやつと書き終え、ホッとしております。

最後になりましたが、執筆者各位にはいざれもご労作をいただき、厚くお礼申し上げます。

(数野)

## 甲府市史研究

第9号

編 集 甲府市市史編さん委員会

発 行 甲 府 市 役 所 市 長 室

〒400 甲府市丸の内一丁目18—1

☎ 0552 (37) 1161 内線311

発行日 平成3年10月22日

印 刷 株式会社 少 国 民 社